

シリーズ『瞬目』④～瞬目（まばたき）に見る注意集中の特徴（最終回）

濱口雅行先生による連載の最終回は、剣道と人間形成のお話です。

今回は、最終章として剣道理念に謳われている「**人間形成**」へと繋げていきたいと思います。

人間形成とは、つまり性格・知性・能力（身体・芸術）によって構成されている「人格の完成」と考える方が具体的に理解しやすいでしょう。中でも“性格”は、その人物の人柄を表すものであり、その形成過程を知ることが剣道＝**人間形成**を知る大きな手掛かりになると考えます。

心理学者の湯浅泰雄氏は、性格は“心のはたらき”が何度も同じパターンで繰り返されることによる「心のくせ」として形成されていくと説明しています。

例えば、人は喜んだり怒ったり、また驚いたり物事に対して必ず心の反応を起こします。

それが同じパターンを繰り返すことにより、怒りっぽい人になったり明るい人になったりします。この時点で、**人間形成**＝人格の完成の関係性を成立させるには感情のコントロールが必須であると理解できます。

大きなポイントが見えてきました。かつて同様に“悟り”の境地に達することを求めて修行に励んだ先人達（僧・武士）にヒントを戴きましょう。彼らがその方法として最も苦労したのが注意・集中することだったのです。

例えば、僧たちは姿勢を整えて座することにより、注意を自身の内面に集中させ「雑念・多念＝感情」の排除に努めました。あるいは呼吸回数を数える「数息観」、または経典やお題目を唱え続ける「唱名・唱題」などの方法により集中力の維持（ビジランス）に努力を惜しみませんでした。武士たちも剣技の向上のみならず、精神的にさらなる高みを目指しました。“雑念の起こるところを切り払う、これが真（まこと）の剣（つるぎ）なりけり”と詠み、僧たちにならって座し、「感情制御（克己）」を目的として「注意・集中」の訓練に励みました。このように、先人達は修行を通して意識と感情（無意識）を統合する力を強めていったのです。

残念ながら、現代生活では簡単なことではありません。しかも厳密に言えば性格自体を変えることはできないのです。「三つ子の魂百まで」と言われるように性格はかなり幼少期に完成してしまいます。したがって、性格を別

ものに変化させるのではなく、上記のように日頃から注意・集中の訓練をすることにより、感情のコントロールを目指すことになります。

さて剣道ですが、その理法の修練の中にある“教え”に気づかなくてはなりません。それは“**目付**”です。注意・集中の注意は、まず目線を対象に向けることから始まります。「一眼・二足・三胆・四力」と言われる所以です。そして、さらに深めることにより集中が始まります。

具体的には「**剣道形・打ち間の攻防・残心**」の三つが挙げられます。

剣道形のように日本の伝統文化の多くは、その修行において、まず定められた姿勢に身体を整えることを大切にしてきました。その上で内なる心の動きに集中し“感情への対処”を目的として形から訓練に入るという方法をとってきたのです。

二つ目は実戦における「**打ち間**」の場面です。一足一刀で勝敗が決する互いの隔たりです。しかし、その隔たりは単なる距離ではありません。なぜなら、そこにはたとえ竹刀を持って修行する現代剣道であっても、竹刀を真剣に置き換え外見的判断だけでは説明がつかない感情という重大な因子が多分に含まれているからです。その心底から湧き上がる「驚・懼・疑・惑」をコントロールできなければ「**打ち間**」の重圧には耐えられません。

そして、前者二つに共通しているのが“**目付**”による“**残心**”です。攻防中はもちろんのこと、打ち切った技の後にも常に注意を払い続けます。その時、**瞬目**は抑制されていますが、逆もまた真なりで、意識して**瞬目**を抑制させることにより注意を深め、集中を高めることができるのです。ここが、感情コントロール（克己）を可能にする“鍵”となります。

剣道の究極の目標である「**人間形成**」とは、これらの特徴的訓練法をよく理解し、精進を重ねていくことだと確信しています。

瞬目（まばたき）、されど**瞬目**でお話しさせていただきました。 “能々吟味あるべし”
多謝！

（大剣連理事・全剣連理事 剣道教士八段 濱口雅行）



「掲額を訪ねて」シリーズ その4

道場に掲げられている、指導理念を語る額を訪ねる企画です。
シリーズその4は実業団剣道界の老舗「クボタ本社道場」をお訪ねしました。
皆さんの道場からの持ち込み企画、大歓迎です！

今回お忙しい中、お話をお聞きしたのは、クボタ剣道部OBの西口芳治先生（クボタの元常務取締役で剣道教士七段、そして我が大阪府剣道連盟の副会長兼専務理事でもあります）。

まずはクボタさんをお訪ねしたきっかけから



先ごろ池井戸潤さん原作、阿部寛・土屋太鳳主演で話題になった「下町ロケット ヤタガラス編」の舞台になりましたね。そうです、社員も工場のラインも含めて全面的にロケに協力しました。無人トラクタで「世界の食糧危機に挑む」創業132年目を迎える機械メーカーです。大阪・なんばに本社があり、構内に柔剣道場を備え、交通至便の地の利から社外一般の出稽古にも広く開放されている老舗の道場です。

そして道場に掲げられているこの額「尚志館」

この道場は1970年に建設、社長・廣慶太郎（のちに大阪工業会会長他就任）による揮毫と聞いています。

由来は、孟子の「尽心章句」巻三十三「何をか志を尚とする 日く仁義のみ」。

「仁」は博愛、思いやり、憐みの心であり、「義」とは人間の正しい道を踏み行う、世の人のために貢献していく心。廣氏は、皆さんご存じかと思いますが戦後の日本の政治の中枢を理念で支えた安岡正篤先生の薫陶を受け「日本の次代の魂を育て上げる」ことに心血を注ぎました。よく安岡先生の思考の三原則を教えてくださいました。何か剣の道にも通じるかと。

第一は、目先に捉われないで、できるだけ長い目で見ること。

第二は物事の一面に捉われないで、できるだけ多面的に、できれば全面的に見ること。

第三に何事によらず枝葉末節に捉われず、根本的に考える。

人間はできるだけ早くから、良き師、良き友を持ち、良き書を読み、ひそかに自ら省み、自ら修めることである。人生は心がけと努力次第である。

そして、一番心に残っているのが、「太い筆で細かい字を書く」これが人生の秘訣だと。

とっておきのエピソードがあれば

私が入社した頃は、柔道と剣道が“社技”と称され、高卒新入社員は1年間の養成期間中、一般教育の傍ら柔剣道のどちらかを選択して初段に挑戦することになっていました。学生時代から剣道をやっていた私は、工場配属で研修生寮に。付設の道場で毎日昼から2時間剣道授業を担当。全国大会や年に2度の社内大会では大いに盛り上がったものです。そして同じ釜の飯を食った連中が高度成長期の会社を支えてくれました。

実はもう一つ、皆さんよくご存じの修道館。1963年に戦後の関西の経済成長を支えた経済界が建設費の半分を拠出寄付してできたのが修道館です。その応接室に掲げられた額があります。修道館の建設に寄与した財界人の方々一覧の筆頭に小田原大造（当時大阪商工会議所会頭）という名がありますが、先ほどの廣氏の二代前の社長です。見るたびに何かの縁を感じます。



（文責 かわら版編集 WG）

次号はクボタ本社と
所縁のある修道館です。
お楽しみに！



シリーズ『日本人と刀』③

～シリーズその3は日本刀の最高傑作「天下五剣」の紹介です。(大剣連監事 山本茂伸)

4. 天下五剣

「名物」の分類は①刀工の名前②神話・伝承③実戦の場で証明された切れ味④所有者の名前でなされます。

数多くの名物の中から、その代表格として室町時代選ばれた「天下五剣」と称される名刀をご紹介します。

(1) 童子切安綱(どうじきり やすつな)

国宝・東京国立博物館蔵・平安時代作・太刀・刃長 80.0 cm・反り 2.7 cm、作者：大原安綱(おおはら やすつな) 大同年間(806～810)の名工
清和源氏の嫡流で当代随一の武士と謳われた源頼光(948～1021)が、勅命に従い酒吞童子(しゅてんどうじ)という鬼の首を斬ったという伝説に由来する。

足利將軍家が代々秘蔵していたが、13代義輝が惨死した後、信長、秀吉、家康と天下人の間を贈答品として遍歴した。徳川第二代將軍秀忠から三女勝姫を娶った越前国松平忠直の手に渡ったが、守刀として妻に贈呈した。

越前松平家は一時没落したが、元禄10年、二代光長の時に津山藩10万石の太守に返り咲いた。その際、江戸藩邸で催された町田長太夫による試し斬りでは、凄まじい切れ味を示したと云われている。

(2) 大典太光世(おおてんた みつよ)

国宝・前田育徳会蔵・平安時代作・太刀・刃長 66.1 cm・反り 2.7 cm、作者：三池光世(みいけ みつよ) 承保年間(1074～1077)の名工、筑後国出身

加賀百万石前田家に代々伝えられた太刀。当初、秀吉秘蔵の太刀であったが、伏見城の肝試しで利家に贈られたとも、利家の娘が原因不明の重病にかかった際、秀吉から何度も借受けたため譲られたとも云われている。

徳川幕府の御様御用(おためしごよう)首切り役・山田朝右衛門吉睦(あさえもん よしむね)による凄惨なまでの切れ味が伝えられている。

(3) 三日月宗近(みかづき むねちか)

国宝・東京国立博物館蔵・平安時代作・太刀・刃長 80.0 cm・反り 2.7 cm、作者：三条宗近(さんじょう むねちか) 永延年間(987～989)の名工、山城国出身

細身で反りが高い平安時代の太刀様式の典型と云われる優美な一振りである。「三日月」の由来はその独特の刃紋からきている。刃縁に沿って見られる「打のけ」がまさに三日月の形をしていることによる。謡曲「小鍛冶」を通じその名が広く知られるようになった。

※謡曲「小鍛冶」伝説

宗近は一条天皇の指名により御剣を作ることになり氏神の稲荷明神に参詣する。そこに現れた不思議な

童子の力を借り太刀を完成させ、佩表(はきおもて)に「小鍛冶宗近」裏に「小狐」と銘を切るが、その童子こそが稲荷大明神であった。

(4) 数珠丸恒次(じゅずまる つねつぐ)

鎌倉時代作・太刀・刃長 81.08 cm・反り 3.0 cm

作者：青江恒次(あおえ つねつぐ) 承元年間(1207～1211)の名工、備中国出身

日蓮上人(1222～1282)の愛刀で、「破邪顕正」の剣として佩用したと伝えられている。日蓮が柄にかけていた数珠に由来するという異名のとおり、武用刀ではない。文永11年(1274)に身延山(みのぶさん)を開山した際、門徒であり一帯を治める地頭であった波木井三郎実長(はきいさぶろうさねなが)から寄進された。日蓮の死後は身延山久遠寺(くおんじ)に保管されていたが、享保年間(1716～1736)に行方不明となり大正9年(1920)に発見。紆余曲折の末、発見者が居住していた尼崎市の本興寺(ほんこうじ)に重宝として納められている。

(5) 鬼丸国綱(おにまる くにつな)

御剣・宮内庁・鎌倉時代作・太刀・刃長 78.2 cm・反り 3.2 cm、作者：栗田口国綱(あわたぐち くにつな)(1163～1125)、山城国出身

北条時政(1138～1215)は鎌倉幕府初代將軍源頼朝の義父という立場を利用し政治の実権を握ったが、当時夜毎枕元に現れ眠りを妨げる小鬼に手を焼いていた。ある日国綱に打たせた太刀の化身と称する老爺が現れ、身体(刀身)が錆で汚れていて鞘から抜け出せず時政を救えないという。翌朝、太刀を清めさせ、抜き身のまま居間の柱に立てて夜の訪れを待っていると、突然太刀が横倒しになり、火鉢の台になっている子鬼の頭部を見事に切り落とした。爾来、時政が鬼丸と名づけた太刀は北条家の家宝となった。しかし北条時政と国綱の生きた時代が違っており、国綱を鎌倉に招聘し作刀を命じたのは第5代執権北条時頼(1227～1263)であろうと云われている。

北条氏滅亡後、「鬼丸」を手に入れた新田義貞は従来から所持していた「鬼切(おにぎり)」と併せ両刀を佩用した。義貞の死後、黄金造りの二振りの太刀は敵將の越前守護・斯波高経(しば たかつね)の手に落ちた。足利尊氏の再三の要求にも応じず逆に反旗を翻したが、結果は降伏し足利家に献上されたようである。戦国期には織田信長、豊臣秀吉の手を経て、鑑定家である本阿弥光徳(ほんあみ こうとく)の預かることとなり、爾来本阿弥家では明治14年に宮内省に返還されるまでの300年余の間、名刀を護持し続けた。(次回へ続く)

「おめでとうございます！」

～令和3年度表彰者

R4.1.17(月) 大阪府剣道連盟で剣道界に
功績のあった方々の表彰式が行われました。
表彰された皆様をご紹介します。

☆公益財団法人全日本剣道連盟より

〈功労賞〉 島野 大洋 氏

〈少年剣道教育奨励賞〉

豊能地区 箕面少年剣道錬成会

三島地区 太志館道場

大阪南地区 平野少年剣道推進会

〃 天王寺少年剣道推進会

泉州地区 旭少年剣道クラブ

☆公益財団法人大阪府スポーツ協会より

〈創立75周年記念体育功労者賞〉 島野 泰山 氏



ホテル阪神大阪 12階 エメラルドルームにて

例年なら新年互礼会の席上で、お集まりの多数の方々の前でご披露するところですが、今回は残念ながらコロナの影響で関係者のみの表彰式となりました。

☆大阪府生涯現役スポーツ賞

金賞	池田 功 氏
銀賞	徳澄 博康 氏
銀賞	藤田 國雄 氏
銀賞	石河 和彦 氏
団体賞	平野剣道協会

<池田 功 先生からのお礼の言葉> 今年で7回目の年男となります。この歳になっても色々な人達と出会えることは大きな喜びです。これは剣道を通じてであり、更に稽古を積むことで、体は勿論頭の健康にも良い効果があります。若かりし頃友人が誘ってくれて始めた剣道がこんなに素晴らしいものであり、よくぞ誘ってくれたと感謝感謝の毎日です。おまけに生涯現役スポーツ賞まで頂いてしまいました。歳をとってもまだまだ上達すると信じて、これからもますます精進いたします。ありがとうございました。

「コロナに負けるな！この逆境を乗り越えて」～大阪学連からの活動報告

R3.11.23(火・祝)、徹底した新型コロナウイルス対策の下、第60回大阪学生剣道優勝大会
並びに第50回大阪女子学生剣道優勝大会が開催されました！

当連盟主催の大会は二年前の同大会以来であり、多くの学生にとっては久しぶりの大会であったと思います。更に、新型コロナウイルスの影響で十分な稽古が積めない焦燥感や、まだまだ不慣れな新しい試合形式に対する不安もあったことでしょう。しかし、当日は逆境を乗り越えてきた学生たちの日々の研鑽が垣間見える正々堂々とした素晴らしい試合の連続で、例年に勝るとも劣らぬハイレベルの大会となり、主催者側にとっても非常に勇気をもらう内容でした。

強豪ひしめく中、見事優勝された大阪体育大学(男子)、



花澤会長による表彰状授与

近畿大(女子)の

皆様、誠におめでとうございます。また、大会役員を始め、ご協力いただいた審判員の先輩方、そして会場をご提供いただいた堺市立初芝体育館の関係者の皆さまに、心からお礼を申し上げます。

今年こそコロナ感染拡大が収まり例年通りの盛大な大会が各地で開催されますことを心より祈念致しております。

(大阪学生剣道連盟 元幹事長 軽尾和輝)

大会結果



	〈男子〉	〈女子〉
優勝	大阪体育大学 A	近畿大学 A
準優勝	大阪体育大学 B	近畿大学 B
三位	近畿大学 A	大阪体育大学 B
三位	関西大学 A	大阪体育大学 A